
GS 横島只夫はどーなった？

朱月 ケイワ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

GS横島只夫はどーなった？

【Nコード】

N4425Z

【作者名】

朱月 ケイワ

【あらすじ】

横島忠夫があその後どーなったのか？
それを少しだけ書いた作品です。

（前書き）

何番煎じになるのかわかりませんが書いてみました。

この作品は二次創作です。

原作作品に、さらに作者が創作を加ええたものです。

その辺りは、なにとぞご容赦と暖かい目をお願いいたします。

上記をご理解の上、興味をお持ちの方はよろしければご覧ください

ICPO個室スペース

シンプルな灰色の業務机の上、ノートパソコンに打ち込み途中の日記とその前に座り何かを考えている金髪碧眼の青年、ピエトロ・ド・ブラドーがいた。

今日、東京旧市街地区

旧美神邸にて起きた霊体の不法売買事件にて懐かしい人達と再会
した

正確には再会ではないのだが、あの時代に戻ったように感じたの
は確かだ。

友人の質問にはちゃんと答えられなかったが問題はないだろう…
たぶん

ピートは日記をここまで打ち込み何か引つ掛かったのだろうか、腕を胸の前で組み、椅子の背もたれに背を預け、視線を上方に向け今日のことを思い返す。

事件の現場で額にトレードマークの赤いバンダナを巻いた横島忠夫が、ピートに問いかける。

「なあ、ピート……！さっきの女が言ってたけど、ここにいる俺たちはただの残留思念なんだろう？本物の俺たちはもうとっくに自分の人生をまっとうして死んだって……… だったら　ッ」

そう言った横島は先ほどまで下に向けていた顔を上げ、ピートの襟首を掴むと涙と鼻水を流しながら詰め寄り

「教えてくれ　　っ美神さんは　　っあの女は、結局俺のもんになったのかあっ！？」

次の瞬間

「丁稚が何を巫山戯たことを、そんなことはありえないから聞く必要もないでしょ！？」　それにこの世界は私たちとは無関係なのよ！

解つたらそんな阿呆なこと聞くんじゃないわよ、いいわね」

彼の上司である美神さんに折檻をされ、ピートが呆然としている横で器用にも残留思念体でありながらも血を流しながら黙って（ただ殴られすぎて喋れないだけ）聞いている横島

「……………」

その懐かしくもスプラッターな現実から何とか立ち直り、亜麻色の腰まで有る長い髪を耳にかけ苛立ちを露にしている美神と何時もの巫女服姿ので二人の間で苦笑いを浮かべているおキヌの方を向いて今後のことを伝えようと話し……………

「あつ、服が違つんだ」

パソコンの前に座るピートは気がついて声を洩らし、正確に思い出していた。

【美神のボディコン】 【おキヌの巫女服】 【横島の赤いバンダナ】

この三つがセットで見れていたのはアシユタロス核ジャックの後一年間、彼が高校を卒業するまでだったことを。

その後一年間、横島は個人で仕事をやらされ次に自分の知識不足を補うために妙神山の老子と一年間修行、その後さらに一年間研修（と言う税金調整）名目でオカルトGメンに出向（貸し出されている）している。

そして動く事のなかったイタズラな運命の歯車と巻き込まれ体質が4年たったある日、忘れた厄災と共にやってきた

神魔対戦の後、消滅していなかった魔神アシユタロスの残兵、デミアンとベルゼブルによる【美神家次女、美神ひのめ（当時5歳）】を人質に捕ったGS襲撃に横島達は人質の安全を最優先に事件を解決するが、最後にトラップが発動し人質を守った時に、横島は世界を移動してしまう。

その後、コチラ側では神族の捜査官ヒヤクメが横島を探すのに数年を費やし、横島は移動した世界で大変な時間を初っ端から過ごす事になるのだが、其れも彼の運命だったのだろう。

そんな事を思い出していたピートは時間が予想以上に過ぎていたことに気がつき、急いで日記を最後まで打ち込みパソコンに保存し、電源を切る様に操作をして部屋から出て行く。

パソコンの画面には電源が落ちるまでの数秒の間、ピーターの日記が表示されていた。

西暦2199年××月××日

今日、東京旧市街地区

旧GS美神邸にて起きた霊体の不法売買事件にて懐かしい人たちと再会した

正確には再会ではないのだが、あの時に戻ったように感じたのは確かだ。

友人の質問にはちゃんと答えられなかったが問題はない。

友人の質問は未来であり過去のことであるので自分には答える権利がないが

一言、友人に言えることは

「横島さん貴方の未来はとても騒がしく楽しそうでしたよ」

プロローグ？完

(後書き)

初めまして、作者です

此の度はこんな妄想小説を読んただきありがとうございます
m () m

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4425z/>

GS横島只夫はどーなった？

2011年12月15日02時49分発行